

製品概要

施工説明書

名 称	LED 投光器			
形 式	光 源 色：白 色 色温度：5000[K] ± $\frac{300\text{K}}{250\text{K}}$			
	LTE0771NDG	LTE0771NW	LTE0773NDG	LTE0773NW
配 光 種 類	狭 角 配 光		広 角 配 光	
仕 上 色	NDG：ダークグレイ(半艶) マンセルN3	NW：ホワイト(半艶) マンセルN9.5	NDG：ダークグレイ(半艶) マンセルN3	NW：ホワイト(半艶) マンセルN9.5
質 量	5.5kg			
口 出 線	600V2種EPゴム絶縁クロロプレンキャブタイヤケーブル 2PNCT 0.75mm ² ×3心 器具外1.2m 先端Hスリーブ付			
使 用 場 所	屋外の一般的な場所		定格入力電圧	100～240V
防 水 性 能	防雨形		電圧変動範囲	定格値±6%
使用温度範囲	-5～35		周波数	50/60Hz共用

ご使用上の注意

投光器の可動範囲は図1のようになっております。この範囲をご確認のうえ、投光器の取付けをおこなってください。その際、構造物とアームとの関係に注意して投光器が構造物に触れないようにしてください。火災の原因となることがあります。

LEDを直視しないでください。目の障害の原因となることがあります。

投光器の周囲温度が35℃を超える場所で使用した場合、または直射日光の当たる場所でランプを点灯した場合、内蔵温度ヒューズが働き、ランプが消灯する場合があります。電子部品の保護機能であり故障ではありませんが、このような環境下では使用しないでください。

温度上昇により火災、電源の故障、若しくはLEDの寿命が短くなる原因となることがあります。

冠水のおそれのある場所では使用しないでください。漏電、感電、故障の原因になります。

投光器の前面カバーは交換が出来ませんので、傷等をつけないでください。破損、防水不良、照度低下の原因となることがあります。また亀裂の入った前面カバーは使用しないでください。

温泉地など、腐食性ガスが発生する場所での使用はお避けください。光学特性等に不具合が発生することがあります。

漏電ブレーカに多数の照明器具を接続する場合、漏電ブレーカの感度電流の設定に注意してください。不要動作を防止するため、感度電流が30mAの高周波対応形漏電ブレーカの場合、漏電ブレーカに接続する本投光器の台数を最大35台としてください。

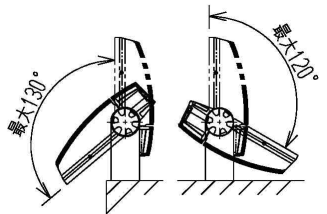


図 1 (構造物との干渉)

器具の使用制限角度はありません。

本投光器は定置形器具です。それ以外の用途で使用する、火災・感電・やけど・落下による事故、および器具破損等の原因となることがあります。

投光器の取付

投光器は構造物への取付けを考慮のうえ、設置してください。

アクセサリーの取付けは別途商品の取扱説明書をご覧ください。

- 投光器のアームには図3のように取付穴（13）が設けてありますので、適用ボルトM10、若しくはM12で長さ25mm以上（ばね座金、平座金を使用）で緩みのないように確実に締付けてください。
(締付推奨トルク17～24N・m)
構造物等に直付けの場合はボルト2本で取付けてください。締付けが不十分な場合、ボルトが外れ、器具の落下の原因となることがあります。
- 専用取付アーム(LTEA51(52)DG(W))、専用フランジ(LTEF53DG(W))には取付用のボルト、もしくはナットが付属されていますが、投光器には付属されていないので、別途準備してください。また、従来のオプションは使用できません。専用オプションを使用してください。

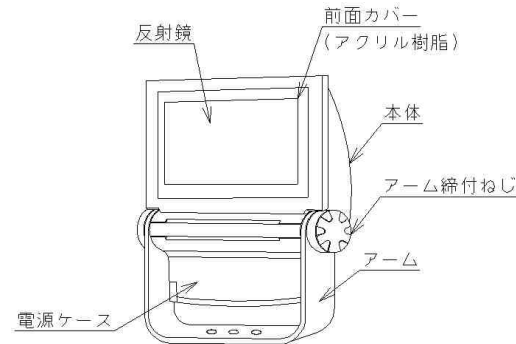
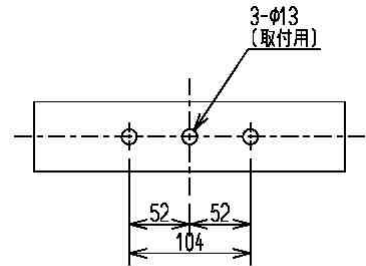


図 2

照射角度の調整

- 図2のアーム締付ねじを緩めて照射角度に合わせてください。
- 照射角度調整後、しっかりと締付け直してください。手での締付けが不十分な場合、図2の締付ねじに締付け用穴がありますので、図4のように一般形のドライバー（先端径 6.5以下）で締付けてください。

締付けが不十分な場合、投光器の落下による事故の原因となることがあります。
- 投光器の角度調整は10°ピッチです。
それ以外の角度で使用すると不十分な締付けになり、投光器の落下の原因となることがありますので、おこなわないでください。



※取付ボルトはM10もしくはM12の長さ25mm以上を使用してください。

図 3

電源線の接続

投光器の口出線（3心キャブタイヤケーブル）に接続する配線は、クロロプレンキャブタイヤケーブルと同等以上の性能を有するケーブルを使用し、投光器からの口出線の黒色、白色に電源を結線してください。（図5）

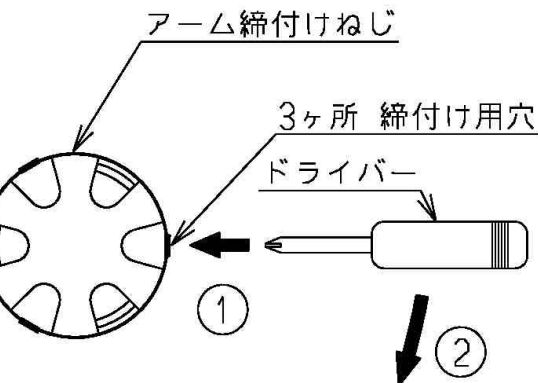
<推奨接続方法>

器具の口出線の末端にはHスリーブが付いています。
図6に示すような差込型の端子台(押しネジ式)の使用を推奨します。

<Hスリーブを使用しない場合>

Hスリーブを使用しない場合は、Hスリーブを切断し電線の被服を剥き結線を行ってください。
絶縁処理は導体部分のみではなくシース（外被）部も含めておこなってください。不十分な場合、電線からの浸水による絶縁不良や、ランプ不点の原因となることがあります。（図7）
結線には確実に絶縁処理を施してください。
口出線の接続は電気設備技術基準の省令第7条、および同解釈第12条に従ってください。（具体的な接続方法：内線規程1335-7参照）

- 3心のうち赤色線がアース線です。D種接地工事をおこなってください。



一般形ドライバー（6.5以下）を差し込み
ドライバーを回転させ強く締めます

図 4

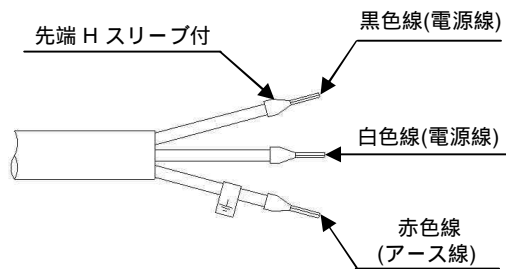


図 5 口出線 末端部

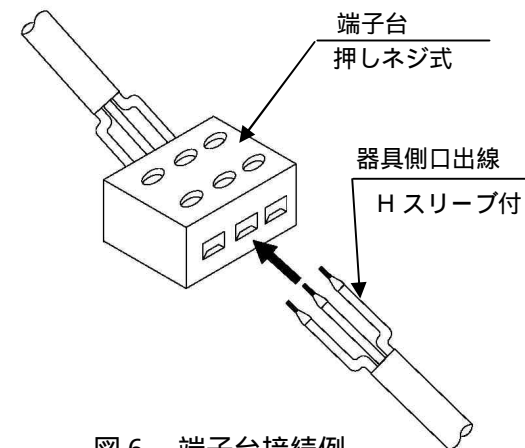
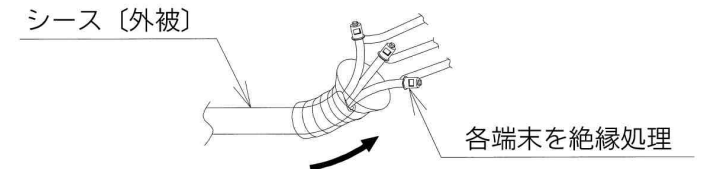


図 6 端子台接続例



自己融着テープ等により各端末を絶縁処理した後に、シース（外被）部から絶縁処理をおこなってください。

図 7